

## 令和6年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会

副部会長 千曲市立治田小学校 山本 直佳

令和6年度の長野県図書館協会小中学校部会では、「学びと心のより所となる学校図書館—学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して—」のテーマのもと活動を行いました。

部会としては、司書教諭、学校司書、推薦課題図書選定、読書感想文・感想画コンクール、出版物利用促進、部会だよりの各部が今年度も設置され、テーマ具現を目指して実践してまいりました。学校司書部会では、昨年度新たに改訂された学校図書館実務マニュアルを読み込み、著作権の周知や探究的な学びを支える図書館利用について、実践を進めました。また、読書感想文・感想画は今年度も数多くの応募を戴き、子どもと本を繋げる取組となりました。各支部の熱意ある活動ならびにご指導いただいた先生方に、感謝申し上げます。

そして更に、今年度は県大会をはじめ各地区大会を「参集」「一日（半日）開催」の形で実施することができ、大変充実した研修の場となったと参加者の方々からお声を戴きました。

10月12日（土）には第74回長野県図書館大会が、大会テーマ「図書館という希望～今こそ『読書の喜び』『図書館の存在意義』を語り合おう！」のもと、須崎市メセナホールにて開催されました。午前の分科会では、情報と図書館、福祉と図書館、子どもが本と繋がる取組といった、現場の先生方の悩みに沿った内容がテーマに据えられ、レポート発表や実践発表、ワークショップ、グループ討議などが活発に行われました。午後の講演会では、角野栄子先生に「ものがたりの魔法」の演題でお話をいただきました。「本は楽しいものだという起点に戻ることが出来た」「角野先生の本に対する思い、子どもたちへの想いに気持ちが温かくなった」など、参加者の皆様から多くの感動の声をいただきました。大会を終えて改めて、対面で直接実践者や講演される先生の熱を感じられること、言葉を交わし合えることの大切さを思いました。

また、各地区の学校図書館教育研究大会は、中信地区が安曇野支部の穂高南小学校・穂高東中学校、南信地区が上伊那支部の伊那市立伊那東小学校・伊那市立東部中学校をそれぞれ会場に行われました。公開された授業や生徒会活動からは、子どもたちが本の魅力を生き生きと語る姿を見ることが出来ました。また、中信地区では宮澤優子氏（三重県伊勢市教育委員会社会教育課勤務）、南信地区では平山直子氏（伊那ケーブルテレビ放送部長）による貴重なご講演も戴くことができ、充実した研修の場となりました。

最後になりましたが、本年度の長野県図書館協会小中学校図書館部会の活動にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げるとともに、令和7年度第75回長野県図書館大会（佐久大会）へのご協力をお願いいたしまして活動報告といたします。

# 支部だより

## 上小支部

上小支部代表 上田市立東塩田小学校 北沢 敦

上小支部は、上田市、東御市、青木村、長和町の小学校32校、中学校14校、計47校からなります。図書館関係諸団体と連携しながら、活動を進めてきました。

### 1 事業内容

#### (1) 上小・東御図書館協会関係

①上小・東御図書館協会役員会 6月27日(木) 14:00 上田図書館

②上小・東御図書館協会総会 7月23日(火) 14:00 上田図書館

③研修会 7月23日(火) 上田図書館

講師 伊藤 英梨 氏 (TRC図書館流通センター)

演題 「TRC MARC・TOOL I 研修」

④研修会 1月30日(木) 上田図書館

講師 越高令子 氏 佐藤あけみ 氏 山浦美幸 氏

演題 「わたしたち、子どもの本の応援団」

(2) 第74回長野県図書館大会 10月12日(土) 須崎市立墨坂中学校・須崎市文化会館  
上小支部参加者19名(小中学校関係者11名)

(3) 令和6年度東信地区学校図書館教育研究大会  
本年度は実施なし

#### (4) 第45回長野県読書感想文コンクールへの応募

①上小地区審査会 9月17日 第五中学校にて 上小国語教育研究会担当

②上小地区応募数 小学校 23校(111編)・中学校 9校(59編)

県審査結果(金賞)	小学校 2編	中学校 0編	計 2編(全国出品1編)
(銀賞)	小学校 4編	中学校 4編	計 8編
(銅賞)	小学校 5編	中学校 2編	計 7編
(入選)	小学校 22編	中学校 9編	計 31編

### 2 本年度の活動を振り返って

- ・昨年度の研修会では、著作権に関わることについての研修を進めました。その年ごとに、会員の身近な課題に関わる研修会を行うことができよかったです。
- ・令和7年度 東信地区学校図書館教育研究大会は実施しません。次の上小開催は令和8年度。ただし、実施計画が変更された場合は新しい計画に従います。
- ・読書感想文コンクールの審査は、上小国語研究会と共同で行っています。上小国語研究会の中の担当者(小中学校の国語科の職員)が審査するので、小中的人数バランスもよく、効率的に進めることができています。県との連絡は、支部代表者と審査担当主任で分担しています。今後もこの形を続けたいです。

# 塩筑支部

東筑摩塩尻支部代表 塩尻市立片丘小学校 召田 和美

塩筑支部は、塩尻市（辰野町）・朝日村・山形村・生坂村・麻績村・筑北村の小学校 13 校、中学校 8 校（内 1 校 塩尻市辰野町組合立）、義務教育学校 1 校の計 22 校で組織されています。各地区の図書館関係諸団体と連携しながら活動をすすめてきました。

## 1 活動内容

### （1）読書感想文コンクール募集と支部審査

#### ①読書感想文の評価についての研修

「次の指導にいかず読書感想文の評価」

講師 塩尻西小学校長 大野 征二 先生

- ②支部審査 応募総数 小学校 9 校 66 編 中学校 3 校 18 編  
県送付作品数 35 編（小学校 23 編 中学校 12 編）  
県入賞 14 編（金 1 編 銀 4 編 銅 9 編）

### （2）各地区での研修等

- ①「読み聞かせ・絵本選びの方法」について 上諏訪小学校 宮坂 米子 先生  
②実践報告「デジ図書信州について」（丘中学校）  
③視察研修 デジ図書信州の活用を行っている学校図書館の見学  
長野市立松ヶ丘小学校  
④ICT 研修「Canva の使い方・実践について」  
⑤学校司書部会自主研修「読書活動優秀実践校 吉田小学校の取組」  
⑥連携部会「ビブリオバトル大会について」

### （3）図書館諸団体との連携研修

- ①信州しおじり本の寺子屋（学校職員向け講座）  
群馬県甘楽町立福島小学校司書教諭 青木 いず美 氏

## 2 活動を振り返って

- ・読書感想文コンクールの支部審査では、7 月に大野校長先生から評価についての研修を行っていた  
だき、審査の基準を明確にして県へ送る作品を選ぶことができました。また、その内容を塩筑教育会  
の研究発表会で発表し、読書感想文の評価と指導における大切な要素について塩筑各校の先生方に  
知ってもらうことができました。
- ・各地区で、学校司書をはじめとする図書館の関係者での研修や情報交換など、充実した会を持つこと  
ができました。
- ・公共図書館と連携し、学校職員向けの講座を設けてもらい、大変勉強になりました。

# ステップアップ研修参加報告

～参加された方の感想より～

## ◇11月21日（木） 「著作権と学校図書館」 （オンライン） 講師 原口 直 先生

- ・迷ったらまず、利用規約を確認しようと思いました。 去年のデータを使用し部分的に書きかえて使用するということはよくあることですが、イラストにまで目がいっていませんでした。著作権法やイラストサイトの利用規約も変わるということを改めて考えたいです。使用するたびに規約をチェックすることを心がけていきたいです。
- ・一回聞いたから大丈夫 ではないという事が改めて確認できました。 なによりイラストの使いまわしにはドキッとしました。毎年確認！肝に銘じます。 あと、先生方にも自分を守るためにぜひ知ってほしいと思います。
- ・著作権のことを意識していたつもりだったが、あらためて分かったことがたくさんあった。出版物イラスト、キャラクターを使う時に確認しなければならない項目も理解した。小学生への教え方が、とてもわかりやすく、機会があったら、同じようにハードルを下げて、好きなキャラクター、ワンピースなど、具体例をあげて、教えてみたい。出来ることからやっていきたいと思う。とても有意義な研修会でした。ありがとうございました。

## ◇1月23日（木） 「地域資料や学校資料をデジタルアーカイブ化するために」 （県立図書館）

講師 県立長野図書館 森館長、槌賀係長

- ・資料のアーカイブについて公開・非公開、クリアしなくてはならない著作権の問題など、基本的なことが理解でき、自校資料や地域史料のアーカイブについて考えていく糸口がつかめた。
- ・信州デジタルcommonsが資料の保管場所として活用できることを知った。貴重資料の保存、使いたい人への限定公開、一般公開など、目的に合わせてアーカイブのしかたも 色々だとわかった。
- ・他の学校図書館さんや歴史館さんの生の声をきけて、参考になりました。
- ・公開するかどうかはこれから考えていくとして、まずは資料保存のためのデジタル化を進めていけると良いと思っています。（資料収集や整理なども）
- ・まずはこういった資料があるか把握しつつ、優先順位をきめて1冊からでもすすめたいです。オンライン公開ではなく校内閲覧はハードル低いのでは？と考えています。

## ◇1月25日（土） 「地域資料や学校資料をデジタルアーカイブ化するために」 （南箕輪村図書館）

講師 県立長野図書館 森館長、槌賀係長

- ・重要な資料、貴重なデータの保存に困っていたので、実際に手順を学べ、大変勉強になりました。学校内で、地域で誰が電子化（デジタル化）していくのか考えていかなければいけないと思いました。
- ・まずは学校の資料保存状況を確認し、電子化したほうが良いものを選別する必要があると思います。学校職員は何年かで異動してしまうので、誰がどのような役割を果たしていくか確認する必要があると思いました。
- ・校内資料（紙しかない。しかも図書館にしかない資料）について。学校内の中で閲覧できるようにしていきたい。

# 読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立松代小学校 大橋 あゆみ

令和6年度、第47回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：334校	◇応募作品数：2764編	※小・中合計数で表示
◇県入選（県応募）作品数：526編	◇県入賞作品数：202編	
◇中央審査会応募作品数：8編	◇中央入賞作品数：1編	

応募校数については、昨年度より6校減少し、応募作品数も、268編減少しました。ここ数年は減少傾向にあります。要因としては、児童数の減少や教育課程の改訂に伴う教育活動の多様化、それに伴い読書や感想文指導に十分な時間をかけられないこと等が考えられます。学習にICTの活用が推進されている昨今、読書の重要性はICTの専門家からも提唱されており、読書の大切さを積極的に伝えていくことが大切と思われます。そんな中で、各支部や各校の皆様には、素晴らしい作品を多く応募していただき感謝いたします。

支部・県審査委員の先生方には、多くの感想文を精読し厳正に審査していただきました。また、小・中学校図書館部会OBの先生方には審査のお手伝いをいただきました。あわせて御礼申し上げます。

県審査にあられた先生方からは、「作品に自分の体験や思いを重ね、自分の言葉でのびのびと書かれた作品が多くあった」「本の内容と重ねながら自己変革につながられていた」等の貴重な感想を寄せいただきました。また、教師として自分自身の今後の指導に生かしていきたい等、よき学びの機会であったと前向きにとらえておられる感想もありました。

一方で、作文の基本的な表記の誤りや誤字、字数過不足な作品が、どの部門にも見られました。作品に自分の体験を重ねたりしながら、伸び伸びと書かれた作品が数多くある中でまとめの工夫が不十分で惜しいと感じさせる作品も多くありました。また、読書感想文の書き方サイトを、構成や表現等のかなりを参考にしたのではと思われる作品がありました。応募規定の確認や推敲等の見届け等と共に情報リテラシーの観点からも各学校や支部審査の段階での指導をお願いしていきたいと思えます。あわせて、AIの使用についても話題にしていくをお願いしていきたいと思えます。

令和6年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：17校	◇応募作品数(県応募)：202点	※小・中合計数で表示
◇中央コンクール応募作品数：7点	◇中央入賞作品数：なし。	

本年度の応募校は昨年度より7校減り、応募作品数自体も125点減りました。しかし、応募された作品は、どれも作品から感じた感動を様々な手法を使って表現しようとしていることが感じられました。今後は、年度当初より年間指導計画に位置付けて、計画的に取り組んでいただけるよう支部および各校への呼びかけに努めていきたいと思えます。

応募作品の審査にあたっては、読書により、どのように心揺さぶられ自分の発見や感動をどのように表そうとしているのかを念頭に作品を選定するよう心掛けました。素晴らしい作品を寄せいただいた各学級の担任や部活顧問の先生方のご指導に感謝申し上げます。

最後になりましたが、両コンクールにご尽力いただいた全ての皆様感謝申し上げます。今後も、子どもたちへの読書の啓発や意欲的な作品の応募を賜りますようお願い申し上げます。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第169号  
発行日 令和7年3月17日  
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内  
長野県図書館協会小中学校図書館部会（代表 林 明美）